

小学校の指導改善プラン（学校用） 富士見小学校

昨年度の「指導改善プラン」の検証（成果と課題）			
昨年度は、学習の見通しをもたせ、資料や実験結果、図、表、式などを根拠に考えたり説明したりする活動を各教科で進めた。また、モデルや学習の手順を示し、他者と考えを交流することで、自分の考えを表現できるよう支援した。今年度の達成度調査では、漢字の読み書き、計算技能、資料の読み取りなどに定着が見られた。一方で、必要な情報を整理・関連付けて説明する記述式・活用型の問題や、児童間の理解度の差には課題が残った。今後は、他者の考えと比較・関連付ける対話を通して、自分の考えを見直し、深める学習過程を充実させる必要がある。			
全国学力・学習状況調査、達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題			
	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○漢字の読み・漢字の書き・心情や理由を読み取る問題で80%を超える正答率が見られる。 ▲「質問の意図を選ぶ」問題の正答率が35.5%、説明文をまとめる記述問題は55.9%と低く、聞いた内容をもとに意図を推測する力、必要な情報を整理してまとめる力に課題が見られる。	○基礎的な正答率は80%を超え、基礎的な内容は定着している。 ▲「応用」の記述式問題や「書くこと」の領域の正答率が低く、課題が見られる児童が多い。	○漢字の読みや聞き取りの基礎力が高く、漢字の読みでは95%以上、聞くことの問題でも90%前後の正答率が見られる。 ▲文学的文章の記述問題（心情変化をまとめる問題）の正答率が17.4%と低く、登場人物の心情を根拠をもって記述する力に課題がある。
社会	○方位、地図の読み取り、買い物調査、消防・警察、スーパーマーケットの仕事内容は正答率が80%前後で、高い理解が見られる。 ▲警察官の交通整理の目的を説明する問題は26.9%、野菜の産地を答える問題の正答率が28%と低く、自分の言葉で説明する力、用語や資料の読み取りに課題がある。	○「わたしたちの県の様子、自然災害に備える」は正答率が80%を超え、定着している。 ▲記述式の問題や「活用」の問題で一部の児童に課題が見られ、児童間の理解度の差も非常に大きい。	○資料やグラフの読み取り問題で90%前後の高い正答率が多く、資料活用能力が身に付いている。 ▲「公害関係の出来事を年表に当てはめる」問題の正答率が58.7%で、歴史的事象を時系列で整理したり関連付けたりする力に課題がある。
算数	○加減乗除や小数・分数の計算、棒グラフの読み取り問題で80～90%以上の正答率を達成している。 ▲かけ算のきまり（49.5%）や文章題（53.8%）など、式を立てて考える問題に課題がある。	○基礎的な内容の正答率は80%を超え、基礎は定着している。 ▲記述式の問題や「活用」の問題で一部の児童に課題が見られ、児童間の理解度の差も非常に大きい。図形の「角」の正答率は学年全体で低い傾向にある。	○計算や図形の基礎的な問題で高い正答率を示し、分数計算や面積、合同の問題で90%前後の正答率を達成している。 ▲「活用」の問題は47.8%と低く、複数の情報を関連付けて考える力に課題が見られる。
理科	○ヒマワリの育ち方や物の重さの正答率は90%を超え、内容が定着している。また、風やゴムの働き、光や磁石の基本問題で高い正答率を示し、実験結果をもとに読み取る力が高い。 ▲影の位置や方位を考える応用問題、方位磁針・磁石の極、影ができる理由を説明する問題の正答率は60%を下回り、説明する問題に課題が見られる。	○「月と星、天気の様子」の正答率は80%を超え、内容が定着している。 ▲「電流の働き」の正答率は70%を下回り、学年全体で課題が見られる。「活用」の問題で一部の児童に課題が見られ、児童間の理解度の差も非常に大きい。	○天気や電磁石などの基礎知識の定着がよく、「天気を決める要因」は94.6%、「雲画像から天気を選ぶ」は92.4%と高い。 ▲「振り子」や「メダカ」などの問題は63.0%で、日常的な経験との関係が乏しい学習内容は概念的な理解に結びつきにくく、断片的な知識の習得にとどまっている。
授業改善の方針			
国語	・キーワードを聞き取ったり、抜き出したりする力を育成するために、各単元で重要な語句や必要な情報を取り出し、整理する時間を設定する。 ・文章から必要な情報を整理し、他者との対話を通し、自分の考えを見直した上で、自身の考えをまとめる活動の充実を図る。		
社会	・位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目し、資料から必要な情報を読み取り、比較・分類したり関連付けたりする活動を継続して行う。 ・読み取った情報や既習事項を根拠として自分の考えをもち、説明の型を活用して表現する活動を充実させる。また、他者との対話を通して考えを比較・関連付け、社会的事象の意味や相互の関係について考えを深められるようにする。		
算数	・習熟度別少人数指導では、児童の実態に応じてグループを編成する。基礎的な内容の定着を図るグループでは、問題場面を丁寧に捉え、分かっていることと求められていることを整理して、見通しをもって立式できるようにする。発展的に学ぶグループでは、一つの図や場面から問題を作成して解き合い、数量の関係を捉え、活用する力を高める。 ・文章題の情報や数量の関係を、式、表、図、言葉で整理・表現し、互いの考えを説明し合う活動を通して、立式する力と活用する力を高める。		

理 科	・知識を相互に関連付け、概念的な理解につなげるため、自然現象との出会いから問題を見いだし、見通しをもって問題解決を進める授業を充実させる。 ・共通体験や既習事項を根拠として仮説を立て、実験結果と仮説を照らし合わせて考察できるよう視点を示す。さらに、自分の考えをもつことが難しい児童には、他者との対話を通して考えを形成・見直す機会を設け、根拠を明確にして筋道立てて記述する力を育成する。
音 楽	・曲との出会いや題材の導入において、問いかけや活動を工夫し、音色や強弱、旋律等の特徴に着目させる。さらにそれらについて対話を通して気づきを共有し、理解を深められるようにする。また、範唱や範奏の映像・音源を活用し、楽曲にふさわしい表現を具体的に捉えられるようにする。 ・歌声や楽器の音色、音量などを互いに聴き合い、気付いたことを伝え合う活動を通して、楽曲にふさわしい表現を工夫する力を養う。
図 工	・作品完成までの見通しをもてるように学習計画を立て、製作段階ごとに途中までの作品を見合い、自分が表したいことや工夫を伝え合う時間を設定する。また、毎時間、製作過程を振り返り、他者の表現のよさを自分の製作に生かせるようにするとともに、製作が滞っている児童には個別に支援する。 ・材料や用具の適切で安全な使い方を繰り返し指導し、自分や友達の作品を大切にすることを育てる。
家 庭	・調理や裁縫において、材料や方法、製作手順などを自己選択する場を設け、見通しをもって主体的に取り組めるようにする。また、互いの工夫を伝え合い、よりよい方法を考えられるようにする。 ・作品や実践の紹介、他者との交流を通して、互いのよさを認め合い、学んだことを自分の生活に生かそうとする意識を育てる。 ・ICT機器を活用して基礎的な技能や用具の安全な使い方を可視化し、目的に応じて活用できる技能の定着を図る。
体 育	・「知る・見る・する・支える」など、運動との多様な関わり方を示すとともに、児童の実態に応じてルールや活動方法を工夫する。グループやチームで動きや作戦について伝え合い、互いの考えを生かして活動を改善することを通して、運動が苦手な児童も自分に合った関わり方で参加できるようにする。 ・特に低学年では「遊び」の要素を取り入れた運動を通して、誰もが運動の特性や楽しさに触れながら、基本的な動きを身に付けられるようにする。
外 国 語	・ALTの英語を聞いて繰り返す活動や、ゲーム、チャンツなどを取り入れ、英語の発音やリズムに慣れ親しめるようにする。 ・語句のアクセントを意識し、児童同士で英語を使って伝え合う活動を通して、相手に伝わるように話す力を育成する。